［12］古文2［演習］古文を読む

一人の親あり。ⓐき所へきて、ⓑをうけて、二人の子のあるがもとへ告げやりたるに、一人の子は、ⓒたる所、近し。一人の子は居所、遠し。

近き子は聞くままに行きけるが、Ａ夜ふかく道おそろしくて、の＊の有りけるに入りて、①夜明けてかんと思ひて入りぬ。遠き子は、さがりて行きけるが、それもあまりにおそろしかりければ、この塚穴に入りて、夜明けて行かんと思ひて入りけるを、②もと入りたる子は、鬼くらひにたると思ひ、今入りたる子は、塚の中に鬼ありてくらはんとするなりと思ひて、③かたみに、くらはれじとて、取りくみ、引きくみて、Ｂ夜もすがらからかひて、夜明けて見れば、わがにみなしてげり。

　＊ひのも、かくのごとし。

（『宝物集』巻第六）

この本文の後には次のような文章が続いている。

悩みや迷いの多いこの世の中を生きていくことは、まるで闇夜の中をさまようようなものだ。しかし、ひとたび仏さまのように悟りを得ると、ぱっと迷いも晴れて夜明けのように穏やかですがすがしい気持ちで生きることができる。

（注）

＊塚穴─昔は人が亡くなると、土葬のためにを掘り、それに小高く土を盛って埋葬した。ここでは古くなって塚も穴も崩れた姿で、残っているのだろう。

＊迷ひの衆生─いろいろな欲望に惑わされ、悩みを多く持っている普通の人々。一方、仏さまは欲望や、怒りや愚かさに心を揺り動かされない心境（悟り）に達しているといわれる。

問1　二重傍線部ⓐ〜ⓒを現代仮名づかいに改めなさい。すべてひらがなで書きなさい。（3点×　3）

ⓐ＝（　　　　　　）　ⓑ＝（　　　　　　）　ⓒ＝（　　　　　　）

問2　波線部Ａ・Ｂの語句の意味として、最も適当なものを次からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。（4点×2）

Ａ　ア　夜明けまでまだ間があるので

イ　夜中も過ぎすぐ朝になるので

ウ　夜の森は先が見えなくて

エ　夜に霧が深く立ちこめて

Ｂ　ア　晩早くから

イ　夜になって

ウ　一睡もしないで

エ　一晩中

Ａ＝（　　　　）　Ｂ＝（　　　　）

問3　――線部①を現代語訳しなさい。（8点）

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問4　――線部②とは、だれのことか。本文中から三字で抜き出して答えなさい。（8点）

　　〔　　　　　　〕

問5　――線部③は、二人のどのような様子を表現しているのか。次の文の空欄に、それぞれ適当な言葉を補い、文を完成させなさい。 ただし、アは一字、イ・ウは六字以内とする。（3点×3）

二人はお互いを、（　ア　）だと勘違いして、（　イ　）として、必死になって（　ウ　）をしている様子。

ア＝〔　　　〕　イ＝〔　　　　　　　　　　　　〕　ウ＝〔　　　　　　　　　　　　〕

問6　作者はこの話を通して、人々にどのようなことを伝えようとしているのか。最も適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。（8点）

ア　迷いや苦しみの多い世の中だから、悟りを求めなさいということ。

イ　私たちの人生は、はかなくむなしいものと悟りなさいということ。

ウ　つまらないことで兄弟げんかをしてはいけないということ。

エ　この兄弟のように親孝行は心がけなければいけないということ。 （　　　　）

【解答】

問1　ⓐ＝とお　　ⓑ＝やまい　　ⓒ＝い　　3点×3

問2　Ａ＝ア　　Ｂ＝エ　　4点×2

問3　夜が明けて（から）行こう　　8点

問4　近き子　　8点

問5　ア＝鬼　　イ＝食べられまい　　ウ＝取っ組み合い　　3点×3

問6　ア　　8点

◆現代語訳

　一人の親がいる。（その親は）遠い所に行って、病気にかかって（しまったことを）、二人の子どもが住んでいる所へ知らせにやったところ、一人の子どもは住んでいる所が近い。もう一人の子どもは住む所が遠い。

　近い（ほうの）子どもは（親が病気だと）聞くとすぐに（親のもとへ）行ったところ、夜明けまでまだ間があるので、道も恐ろしくて、野の中の墓穴があった所に入って、夜が明けて（から）行こうと思って（その墓穴に）入った。遠い（ほうの）子どもは、（近いほうの子どもより出発時刻が）遅れて行ったが、道もあまりにも恐ろしかったので、この墓穴に入って、夜が明けて（から）行こうと思って入ったのを、最初に入った子どもは、鬼が（自分を）食べにやって来たと思い、（また）今入った子どもは、墓の中に鬼がいて（自分を）食べようとするのだと思って、お互いに食べられまいと思って、取り組み、引き組みして、一晩中争って、夜が明けて（お互いに相手を）見ると、（なんと）自分の兄弟だとわかったのだよ。

　（悟りの境地に入ることができなくて悩みや苦しみを抱いて）迷っている世間の多くの人々も、このようなものである。